

沼津市青少年教育センター

たより

平成27年10月号 No. 513

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

「優情と自芯」

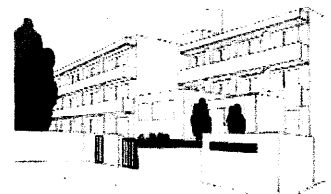
沼津市立原中学校校長 芝 厚

本校の学校教育目標「思いやりの心を持ち、自分のよさを発揮できる生徒」は、14年間に渡り引き継がれてきました。現在でも、原中の生徒がこのように育ってくれたら素晴らしいと考えています。ただ、どんなに素晴らしいものでも時間の経過とともに陳腐化していくものです。そこで、この学校教育目標を自分流に解釈した言葉「優情と自芯」を新味として加えて表現しています。「優情」という言葉は、ある生徒の美術作品からいただき校長室に飾ってあります。「優情」は、「友情」という言葉に優しさという意味を掛けて表現した言葉です。「自芯」という言葉は、「自信」という言葉にぶれない芯の力強さを加えて表現した私の造語です。つまり、学校教育目標を自分なりに解釈し、「優しくて芯のある人間づくり」と読み替え、さらに短縮して「優芯教育」という言葉で、この学校教育目標を自分の中で整理してきました。

ところが、先日ある雑誌を読んでいると次の文言に目が留まり、この「優芯教育」を改めて考え直すことになりました。

本当にこの頃の子供は優しくなりました。ところが大事なものが抜けていたと思うんです。それはガッツなんですよ。

深刻な「いじめ」が生じると、学校責任を厳しく問われる場面がマスコミで報道されます。また、「大切な我が子に対して、何てひどいことをしたのか」などの親からの一方的なクレーム対応に追われることも多くなってきています。そんな状況から、どうしても「優芯」のうち「優」指導が優先されてしまい、「芯」指導がおろそかになってはいると思いました。「芯」指導は、少々のことではびくともせず、自分の信念を強く持って前向きに取り組んでいく姿を目指すものですから、どうしても子供たちにある程度の負荷をかけて育てる必要があります。時には「無理だ」と感じられることであっても、励まし挑戦させ、厳しさに耐え、それを乗り越えることによって、強い「芯」ができます。「優」指導とともに、このような「芯」指導の大切さを生徒・保護者に伝えながら、「優」教育と「芯」教育の二つがバランスよくできている「優芯教育」を改めて目指していきたいと思います。



わたしの主張

「わたしの主張2015」静岡県大会で、優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

一步を踏み出す勇気

大平中学校 3年 鈴木 伶哉

僕は、今ここに立っています。家族、友人、多くの人に、僕の気持ちを届けるために。

四年前まで、僕は不登校でした。面倒くさい気持ちが始まりでしたが、日を追うに従って人との関わりがぎくしゃくし、また、勉強の遅れを感じるたびに、それは、次第に不安に変わっていきました。そして、その不安は、どんどん大きく重くなって僕は学校に行けなくなってしまいました。

引きこもりとなった僕の耳に入るのは、外で元気に遊ぶ子どもたちの声、登下校している僕と同じ年頃の生徒の楽しげな会話・・・しかし、その声を耳にしても僕の気持ちは虚しくなるばかりで、前に進もうという気にはなれませんでした。先生や同級生の訪問のおかげで保健室登校をすることにはなりましたが、「朝」は僕の気持ちを後退させ、欠席も少なくありませんでした。

今、僕がここに立ってられるのは、これまで僕を見放さずにいてくれた先生、友達のおかげです。

そして、偶然目にした母の涙でした。母の涙は僕の弱い心を打ち砕き、後悔を自覚させてくれました。

その時、僕の心に「前に進め」という勇気と激励が芽生えました。登校そのものが苦しく、嫌な気分になることもありましたが、しかし、母の涙を思うと、僕は母を悲しませてしまったという、僕自身の責任を感じざるを得ませんでした。ですから、どんなに辛くても教室に足を運びました。

不登校期間の五年間という大きなブランクは、勉強だけではなく、生活全体に影響していました。算数、国語、どれをどうやって解いたら良いか。学校生活そのものが分からなかったのを覚えています。

そんな戸惑うばかりの僕を助けてくれたのは、やはり友達でした。人との関わりを面倒と思っていたのは間違いでした。人との関わりをこんなにも嬉しいと感じさせてくれたのですから。

僕と同じように出口が見つからないでもがいている人は、この社会にどれだけいるのでしょうか。一時期、「ニート」という言葉が社会問題になりました。

今ではこの言葉も聞かれなくなりましたが、なくなったわけではありません。むしろ多くなっている

のではないのでしょうか。あまりにも多くなり、珍しくなくなってしまったために、社会問題として消えていく・・・あまりにも悲しいとは思いませんか。

周囲も無関心になってしまいます。

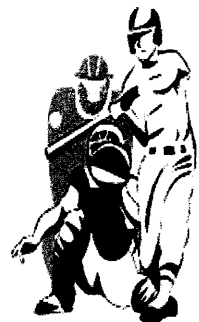
不登校で悩んでいる生徒、そしてその家族。たまに新聞で、増加傾向にあるという話題を目にはしますが、その場だけの問題として片付けられてしまっているのではないのでしょうか。人との関わりを遮断してしまう原因はさまざまです。でも、彼らもきつと出口を探していると思うのです。その一步を踏み出す勇気が出ないのだと思うのです。僕だってそうだったのですから。だから自ら自分の心の扉を閉ざしてしまうのです。

僕は、母の涙で目覚めました。友達と先生の温かい気持ちに救われました。今、一步を踏み出せない以前の僕と僕と同じように悩んでいる人に、勇気を振り絞って歩き出してほしいと心から願っています。

僕の祖母は六十七歳です。曾祖母の介護を終えてから、パソコンに挑戦しました。教えても教えてもなかなか覚えなくて、教える側が弱音を吐きそうになりましたが、それでもあきらめずにがんばっています。祖母なりの一步なのです。

僕はというと・・・
野球に毎日汗を流しています。

そして、驚くことなかれ！僕は、今、応援団長で全校生徒を引っばっていく立場にいます。



僕が一步を踏み出せたように、出口を見つけられずに苦しんでいる多くの人にも可能性は必ずあります。

どうか僕の声、願いがたくさんの人に届きますように。



面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
 青少年に関する面接相談。
 ◎相談および申し込み受付時間：
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎相談申し込み：Tel 951-3440

平成27年7月・8月・9月の状況

7・8・9月には新たに申込みがあった11件（7月7件、8月1件、9月3件）を含め、50件（延べ相談回数272回）の相談に応じました。

1 相談内容別新規相談件数

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
7月	0	5	2	0	0	0	7
8月	0	1	0	0	0	0	1
9月	0	2	1	0	0	0	3

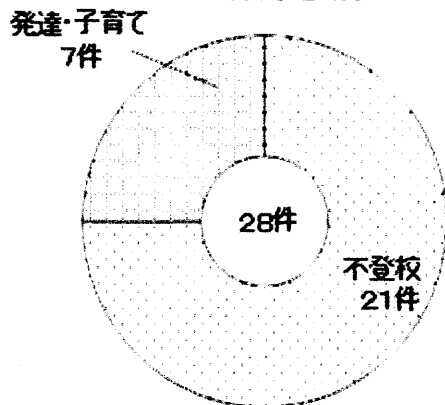
2 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
7月	0	4	3	0	0	0	7
8月	0	0	1	0	0	0	1
9月	0	1	2	0	0	0	3

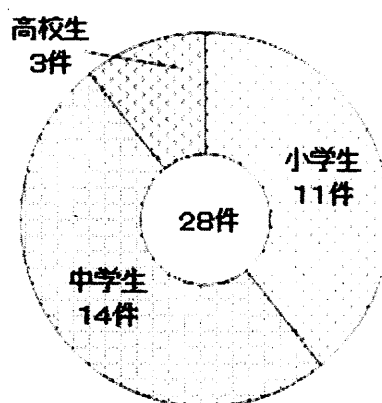
3 今年度の新規相談受付状況

受付件数 28件 （前年同期 32件）

相談内容別



相談対象者別



4 7・8・9月の相談件数（新規及び継続）

対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		4	4				8
	女		4	1				5
中学生	男		13	4				17
	女		17					17
高校生	男							0
	女		1					1
少年	男					1		1
	女							0
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	0	17	8	0	2	0	27
	女	0	22	1	0	0	0	23
男女合計		0	39	9	0	2	0	50

5 7・8・9月の相談回数（50件の相談延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
7・8・9月	男	140	3	1	144
	女	125	0	3	128
	計	265	3	4	272

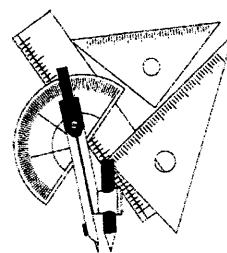
6 相談指導学級の様子（学級担当より）

学級では、基本的に通級生の自主計画によって、学習活動や創作活動等を行っています。ただし、火曜日の午後はスポーツの時間、木曜日は体験活動の日と位置付けて特別日課を組んで実施しています。

学習活動への取り組みは、自分で課題を見つけて進めており、ますます真剣味が増してきました。7月23日(木)、学校の1学期終業式の前日に相談指導学級の1学期が終了し、学校と同様夏休みに入りました。夏休み中も相談指導学級を可能な限り開放し、学習活動を行いました。中学生は、自分の進路も考えながら熱心に学力向上に努めていました。夏休み中も個々に様々な変化が見られ、成長を感じました。

体験活動は、農耕体験（畑の除草活動等）、創作活動(陶芸)、学習体験(篆刻)など、バラエティに富んだものを実施しています。どの活動も決して楽なものではなく、充実感・達成感等が十分味わえる活動であり、様々な感動を得ています。体験を通じて何かを学び取り、これからの社会生活に活かしてくれればと願っています。

2学期は何事にもじっくりと取り組みやすい学期です。充実した日々を過ごし、確実な成長をしてほしいと願っています。たとえ少しずつの歩みでも・・・。



電話相談

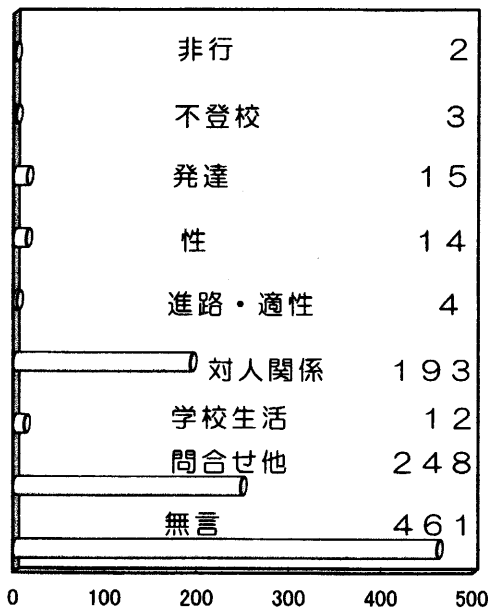
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：午前10時～午後7時
 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

平成27年7・8・9月の状況

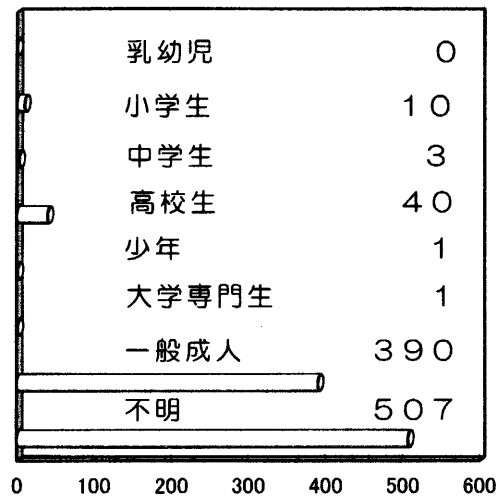
7月には249件、8月には294件、9月には409件の相談が寄せられました。
 （前年7月：161件、前年8月：144件、前年9月：168件）

1 7・8・9月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



2 今年度の電話相談受信件数状況(平成27年度)

総件数 1,533件（前年同期 964件）

(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	2	12	25	28	5	258	33	467	703

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	1	18	12	89	2	3	638	770



小学生の暴力最多1.1万件

沼津市立愛鷹小学校 山本 成規

文部科学省が9月16日、国公立の小中高校を対象にした「問題行動調査」の結果を発表した。それによると、昨年度の小学生の暴力行為は、11,468件で、前年を約5%上回って過去最多となった。これは、8年前の3倍の件数である。同日の静岡県教育委員会の発表によると、本件でも小学校は139件増加しており、全国及び静岡県ともに中学校、高校が大きく減少している状況とは対照的な結果となっている。中でも低学年の増加が危惧される。

文科省は、繰り返し暴力をふるう子や感情のコントロールができない子が増えていると分析。貧困などの課題を抱える家庭が増え、小学校入学前に言葉で意思を伝えさせるなどの家庭教育が十分でないケースが増えているという。また、県教委では、小学生の暴力行為には、発達の問題を抱える事例も目立つことから、特別支援・学習支援員の配置に取り組む考えを示している。

各学校の対応としては、まだ分析段階で確たる策はないように思える。暴力行為に対して力での押さえ込みは不適切であることだけは、はっきりしている。そして、「困った子は、困っている子」として、本人の声に耳を傾ける姿勢がまずは大切であると感じる。本校では現在、アセスによる個別支援、人間関係プログラムによる集団作り、児童理解研修による全校での情報の共有や指導等の共通理解、スクールカウンセラーの活用、チーム・ティーチングによる授業等が具体的な対応策として挙げられる。

小学校の学級担任の休み時間はほぼ無いに等しいほど多忙である。このような状況下で学級担任は多くの問題行動と向かい合っている。上述の方策が有効に機能するためには、「多忙化の解消」が絶対的に必要であると現場は声を挙げている。

1 少年補導委員の延べ参加人数（7月～9月）

	市職員	教員	女性 補導委員	母 親 補導委員	地区代表 補導委員	警 察	地 区 補導委員	総 数
7月	5	8	10	3	0	0	233	259
8月	9	7	8	0	20	0	536	580
9月	7	7	5	5	11	0	292	327

2 補導回数・補導状況（7月～9月）

	補 導 回 数				声かけ 注意・指導	事 後 指 導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
7月	2	6	13	21	146	0	0
8月	2	7	51	60	158	0	0
9月	1	10	35	46	96	0	0

3 補導活動（平成27年4月からの累計）

補 導 回 数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事 後 指 導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
258	2148	656	0	0

4 平成27年7月・8月・9月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

夏休み中は、街頭に青少年の姿が多く見られました。したがって、補導活動も活発に行われました。特に、夏祭り特別補導には多くの方が協力してくださいました。この場を借りてお礼申し上げます。2学期に入ってから、これまでのところ比較的落ち着いた状況にあります。不登校の青少年の数が多いため今後、不良行為の増加が懸念されます。

区分	学 職 別		小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月からの計
	性別									
飲	酒	男								
		女								
喫	煙	男								
		女								1
夜間はいかい		男	30	22	9				61	76
		女	30	16	6				52	67
不良交友		男								
		女								
怠学・怠業		男								
		女								
ゲームセンター入場		男	4	30	73				107	193
		女	2	7	31				40	93
パチンコ店入場		男								
		女								
カラオケ店入場		男								
		女								
自転車の暴走行為		男	1		1		1		3	4
		女								
自転車の二人乗り		男		1	1				2	2
		女			3				3	3
自転車の無灯火		男	3	3	6	4	1		17	24
		女		1	1				2	3
危険な遊び		男	5	8	2				15	15
		女	3	7					10	10
その他		男	8	10	28	1	2	2	51	102
		女	5		31			1	37	63
計		男	51	74	120	5	4	2	256	416
		女	40	31	72			1	144	240
男女合計			91	105	192	5	4	3	400	656

事後	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	0
		女							0	0
指	他機関へ連絡	男							0	0
		女							0	0
導		男女合計	0	0	0	0	0	0	0	0

「眠り」について考える

= 能力を最大に引き出すために = Part I

最近「健康」についての関心が高まり、健康食品の研究、栄養摂取の方法、ダイエットやウォーキングの注意点等が様々に紹介されていますが、「睡眠」については、それほど、重く受け止められていない気がします。



しかし、「健康」の中で重要な役割を果たしているのは「睡眠」です。「食べる・寝る・排泄する」は、人間にとって基本的な欲求です。人間は生きるために必要な睡眠を何らかの形で確保しています。これは、^{いのち}生命を維持するためだけのものです。したがって、それだけでは、能力を最大限に発揮するための「睡眠」とはいえません。ナポレオンの睡眠時間が少なかったのは有名な話です。3時間程度だったともいわれています。よく言われる「睡眠は8時間ぐらい必要」という通説と比較してもかなり不足しているように思います。ただ、科学的には、脳の機能回復には3時間ほどの継続した睡眠が必要であり、肉体の疲労回復には5時間程度を要するといわれています。正しくは睡眠は「時間」ではなく「量」で表します。式では「睡眠量 = 時間 × 深さ × 環境」ということになります。つまり、同じ時間の睡眠であっても、深さが2倍であれば、「量」的には2倍になります。環境的にも条件を整えば、さらに、「量」は増大します。ナポレオンは、かなり効率的な睡眠をとっていたと思われます。つまり「睡眠」も、時間的なことを含め、工夫次第で効率的な方法を身につけることができるということです。人は、心身が健康で、十分な睡眠がとれて初めて、自己の持てる能力を最大限発揮できます。「睡眠」は、もっと深く考えていく必要があるように思われます。

センターの活動予定 (11月・12月・1月の主な活動予定)

日 程	活動(行事)予定	日 程	活動(行事)予定
11月 3日(火)	高校生落書きクリーン作戦	11月12日(木)	学習体験(文化財発掘)
6日(金)	第4回補導委員会代表者会	19日(木)	社会体験(ものづくり)
19日(木)	商業店舗補導連絡会	26日(木)	// (白糸の滝見学)
28日(土)	高尾山祭典特別補導	12月 3日(木)	// (柿田川湧水群見学)
12月11日(金)	県内一斉冬季補導	10日(木)	学習体験(調理実習)
【相談指導学級】		17日(木)	// (スケート)
11月 5日(木)	職業体験(収穫・整地)	1月21日(木)	社会体験(自主見学)

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言(昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。